

# 星屑

VOL. 204  
March. '92



熊本県民天文台

## 宮本さん 永井さん      ご苦労様でした！

永年、私たち熊本県民天文台を支えてきてくださった宮本台長・永井副台長の両氏が、この3月で一つの句切りをお付けになることになりました。

そこで、今月の『星屑』は宮本台長・永井副台長へのメッセージを特集しました。今までの天文台10年の歩みと、その前の天文研究会での貴重な話の数々をお楽しみ下さい。

### 宮本台長

#### 熊本市立博物館御勇退

チロ賞受賞決定おめでとうございます。

さて、宮本台長は70歳になられ、博物館の嘱託としての仕事も10年というひとつの句切りの年で、今回の決断となったそうです。宮本台長はこれまで博物館のプラネタリウム番組の製作などで大活躍され、私たちにも大きな刺激を与え続けてこられました。本当に長いようで短い10年間でした。天文台完成を機に仕事をやめられ、博物館の嘱託となられたのが10年前でした。天文台の顔として各種のイベントの先頭にたって活躍していただき、その行動力には若いものもビックリさせられどうしてでした。

今後、嘱託を辞められてからも天文台長としてそのまま活躍していただくことになっています。清和村での天文台建設計画のアドバイス・城南町での県民天文台新築移転の段取り・そして『チロ賞受賞』と今年は大変な年になりそうです。健康に注意されて元気にお過ごし下さい。

「天文犬チロ」を知ったのは10数年前のテレビでした。白河天体観測所の天文台長をつとめたという賢い北海道犬チロの話に大変感動したものです。運よく録画していて、天文教室や星を見る会でも、多くの人たちにみてもらいました。

その中で、飼い主の藤井旭さんは『星なかまは、チロは犬のかっこうはしているけれども、だれも犬としてではなく、人としてつきあっていました。』と語っておられます。

そんなチロがこの世を去ったあと、全国から集まった愛の寄金などで、チロ賞はつくられたと伺っています。そして、チロ賞は星を愛し天文普及に貢献した人に贈られるもののようです。

この度、熊本県民天文台の宮本台長がチロ賞を授賞されるようになったことは、私どもにとっても大変嬉しいことですし、チロも同じ天文台長として、握手して喜びたい気持ちではないかと思えます。

宮本台長は、私たち熊本のアマチュア天文家にとって、神様のような存在です。星なかまの集まりの中で、また10周年をやがて迎える熊本県民天文台の一般公開で、そして、熊本博物館のプラネタリウムでも10年の間、多くの人々に星の話を通して感銘を与えて来られました。まさにチロ賞にふさわしい人物として、心からお祝い申し上げます。

宮本先生「チロ賞」受賞まことにめでとうございます。そして、また、熊本市立博物館におけるプラネタリウムの解説、長い間お疲れさまでした。これからは、熊本県の天体観測ばかりでなく、日本の天体観測者尚且つ世界の天体観測の第一人者として、ますますご活躍されますことをご期待申し上げます。さらに、今後竜ヶ岳町の「ミュージア天文台」もよろしく御指導下さいますよう、お願い申し上げます。

竜ヶ岳町長

辻本両造

## 空飛ぶ台長の話

小林じゅうろう

某月某日、天文台にて台長が「あなたとのつきあいもかれこれ四分の一世紀になりますねえ・・・」と煙草の濃いケムリのむこうで笑った。

4分の1と簡単にいうけれど、数字でいえば25！、25年ですぞ。クリスマス・ケーキなら問題になる数じゃありませんか。学生さんたちのほとんどはまだ生さえ受けていない時空の向こうだ。そうですねえとこたえながらニコチンの煙の中にあのころの思い出が浮かんできた。

初めて出会ったのは、勤業館3階の博物館学芸員室の冬の日曜日（だったと思う）だった。薪を燃やすダルマ・ストーブがなぜか暖かったのを覚えている。星の話をするともまだ彗星を見たことがないというのが意外であった。

それから、たくさんの会員とともに台長さんの家を訪ね、そう色々とありましたねえ。今は会員名簿から消えた人を含め、たくさんの仲間達の顔が浮かんでくる・・・

タマの音は違うのだとほのかに灯る真空管のアンプの音を聞いた日（このこだわりは今でもLE8Tの箱が語っている）、滅多に酒はなかったけれど飲むとはちゃめちな日々、うーむあの頃は何かあったのだろう。

きわめつけは、ハング・グライダーだなあ。吉無田高原や俵山に毎週末出かけては大空にチャレンジ！！ そりゃあ、確かに昔は本物のグライダーで飛んだことがあるとはいえねえ、わたしやあ、一緒に出かけながら物好きやなあと思ったのが本音。エッ！私ですか、私は何度かのトライの末に3次元空間を制御する能力は無いと悟り飛ぶことをあきらめましたです、ハイ。でも、短かったとはいえ自力で大地を離れた感覚は私の大事な財産ではある・・・（あの写真は今はもう存在しないのでしょうねえ、kさん）。

今、プラネタリウムの傍らで優しく微笑む台長さんが空を飛ぶ姿、皆さん想像できます？ こんな面を持つ台長さんだから、ピラミッドタイプ赤道儀やライト・シュミット・カメラを作ってしまうのだと私は一人納得している・・・

ふと、我にかえて今自分振り返りを思う。いつのまにか私も私が初めて会った頃の台長さんの年齢に近づいている。でも、彼ほどの熱はあるのだろうか、後に続く人たちに何か残せることがあるのだろうか・・・、これからも空を飛ぼうなんておもうことがあるのだろうか？

紫煙の向こうにいつもの台長の笑顔がある。すべてが良いとは言わないけれど、台長との出会いは私にとってとてもラッキーなことだと思っている。私にとって、台長はいつも大空を飛んでいる。

1992年春

# 怪物か．．触媒か

その不思議な魅力に迫る

T. TSUYASHIMA

12年ほど前のある日、福岡秀一氏（現、宇土高校教諭）に誘われ、宮本さん宅での熊天研例会に初めておじゃました時、「この人」が私の人生を大きく変える「触媒」になるとは全く予想だにしていなかった。

当時、宮本さんの名前は天文雑誌を通して自作望遠鏡製作の神様みたいな人だとすでに全国に知れわたっていたから、その自宅を訪問しようという私の計画がかなりの緊張なしには実行できなかったことを読者には理解して頂けるだろう。

しかし、お茶とお菓子とコーヒー・紅茶、さらにアイスクリームそして宮本さんの望遠鏡製作談など、氏宅のフルコースを一度経験してしまうと、すぐに私はその魔力に捕らわれてしまった。それはまるで底知れぬブラックホールのそばを通り抜けようとしてその重力に引き寄せられる星屑のようなものだったのだろう。

出会いからまもなく、私は「天文台をつくろう」という活動の片棒をかつぐことになった。様々の応援・支援・アドバイスが宮本氏の人脈を伝わって私たちの回りに集まった。そうした恵まれた条件の中を駆け回って、私たちは天文台を建設することができたし、さらに10年間にもわたって毎夜一般公開を続けてこれたのだと思う。気がついてみると、私の回りには私と同じように「宮本ブラックホール」に吸い寄せられた数多くの仲間が集まっている。（S. 山本氏の体験など私とそっくりだと思ふ）

実際のブラックホールの周囲には引き寄せられた物質がひしめき合いアクリション・ディスクとなって膨大なエネルギーを放出しているそうだが、この構図こそ熊本県民天文台が10年間も毎夜一般公開を続け、今また大きく飛躍しようとして輝いていることと良く似ている。

私自身、県民天文台という不思議な天文台を舞台に、思いつくがままに様々な新しい試みをしてきたが、困った事があつたり判断に迷う事のほとんどを宮本氏との対話の中で解決策を見だし、息を吹き返し、活力を再生して乗り切ってきたように思う。

そんな私に比べると、宮本さんはいつも数歩先を「飛んでいる」。

この3月、70才になったからと宮本さんは博物館の囑託を退職される予定だが、最近やけにラジコンのグライダーが話題に上る。訳を尋ねたところ、博物館を退職したら清和村が計画中の天文台を舞台に、さらに活躍の予定で、夏の間は清和で暮らすつもりだとか。夜は星を見て過ごせば良いが、高原の昼間を寝て過ごすのはもったいない、健康増進と清和の自然を考え、騒音のしないラジコン・グライダーに目をつけたとか。雑誌を買い込んで研究中の様子。「スポーツカイトやモデルロケットも面白いですよ！」と目を輝かせて話しかける様子は10年前と少しも変わらない。

「昔は若かった」などといいたくなる我々をしりめに、いつまでも若さを失わない宮本さんはやはり「怪物」．．いえいえ「触媒」なのに違いない。

浅川美和子

「ポインターを、ピタリと決められるようになれば、一人前です。」

初めて、プラネタリウムの機械の前に立った私への、宮本先生のお言葉です。

それから2年数か月たちましたが、まだフラフラゆれ動いています。(天文知識も含めてです)

また、初めて天文台に連れて行って下さったのも、宮本先生でした。

「暗い山道を、こんなにビュン！ビュン！飛ばされるのは、よほど通り慣れていらっしゃる道なのでしょう。」と自分に言い聞かせながら助手席に座っていましたが、車から降りた時には、肩はカチカチ、手には汗をにぎりしめていました。

でも、ま近に見える星々は美しく、プラネタリウムとは違って秋の四辺形の“四角”の大きかったこと。びっくりしました。

アンドロメダの大星雲も肉眼で見えました。感動しました。

それからも幾たびかの緊張と感動がありました。宮本先生のおかげだと思っています。

ありがとうございます。

不肖の弟子(勝手に決めています)ですが、これからも「天文のおはなし」お願いいたします。

緊急のプラネトラブルで、先生に出動して頂くことが、度々あるかと思いますが、どうぞゆっくり運転されますように……。

それから、“チロ賞”受賞おめでとうございます。

益々のご活躍を心からお祈り申し上げます。

## 宮本先生へ

古田 とみよ

宮本先生、「チロ賞」受賞、本当におめでとうございます。「チロ賞」というと大変、権威のある賞で、その賞を受賞された宮本先生は、もの凄いなんだと、今更ながら、感心しています。（宮本先生が、これまでに、どのような活躍をされてきたかについては、皆さん、良くご存じだと思いますので、あえて割愛させていただきますが・・・）

これからも、熊本県民天文台の顔として、頑張っていたきたいと思います。宮本先生の、よりいっそうの、ご健康とご活躍を心より、お祈り申し上げます。

ところで、宮本先生の「チロ賞」受賞が、新聞で報じられてから、色々な方から「チロって何？」とよく尋ねられました。「天文台の台長さんをしていた犬の名前ですよ。」と言うと、ほとんどの方が、不思議な顔をされました。天文と犬とのつながりが、理解出来ずにいらっしまったのでしょうか。チロとは白河天体観測所の藤井 旭さんに飼われていた北海道犬の事なのですが、残念ながら1981年に亡くなってしまいました。その時に全国から送られてきたお香典を基金にして「チロ賞」が誕生したのです。ポプラ社から出版されている、『星になったチロ』という本には、藤井さんとチロの出会いから、天文台の台長として活躍するチロの姿などが、親しみ易い文章で描いてあります。

皆さんもこの機会に、ステキな星仲間、チロのお話を読んでみられたらいかげでしょうか？

さて、宮本先生は、残念なことに、今年の3月で、熊本博物館プラネタリウムをおやめになります。4月から、機械も更新され、コンピューターも導入されるというのに、本当に残念な事です。特に私は、いつもいつも先生に助けていただいていたので、これから先の事を考えると、不安になってしまいます。プラネタリウムでご一緒させていただいた3年間、先生は色々な事を教えて下さいました。その御恩返しのため頑張らなければと思っています。

ところで、宮本先生は今、ラジコンに凝っていらっしやいます。時間が出来た昼間に、広ーい所で、ライダーを飛ばす計画を立てていらっしやるそうです。先生の事だから、きっと、その道を極められる事でしょう。私も時々、お邪魔しますので、ラジコン触らせて下さいね。ダメですか？（近い将来、子供を連れていけたらいいんですが・・・。どうでしょう？） ☆☆☆☆ ★

宮本先生、これまで、本当におつかれさまでした。そして、これからもよろしくお願ひいたします。

## 宮本さんに感謝！！

池永久美子

博物館のプラネタリウムで絵を描く人をさがしていると聞いて、私は2つ返事の大のり気で博物館へ連れていってもらいました。もう、プラネタリウムの大ファンだったから。その日が宮本先生との初対面でしたそして私は宮本ファン+天文ファンとなり、星を見る、宇宙を語る天文会員の人と知り合うという幸福を得たのです。誰にでも、小学生にでも偉い大人にでも同じように、誠実に暖かく接し、高ぶらず、周囲の人にその人格でもお手本とされている宮本先生との出会いに感謝します。

### 宮本先生の第一印象

宇都哲弘

僕が宮本先生に初めてお会いしたのは、大学に入学し、熊大天研に入部してから、一ヶ月(?)くらいしたときでしょうか。

その日は、うちの部で博物館のプラネタリウムを見に行くことになり初めて博物館に行った日でもありました。

そして、プラネタリウムを6年ぶりに見た後、甲斐さんにつれられて、研究室(?)に行き、そこで初めて宮本先生にお会いしました。

そのとき宮本先生に会って思ったことは、鉄腕アトムを作った博士(お茶の水博士じゃなくて・・・てんま博士(?)だったと思う)に似ているということだったのでしょうか。実際にはてんま博士の絵をこの数年見ていないので、どうだったかわかりませんが・・・何故か一番最初に、頭にこのことが浮かび、その時のことを今でもよく覚えています。それはおそらく、同じ科学を志す人としての雰囲気はどことなく似ていたからでしょう。

これが宮本先生に、初めてお会いした時の僕の第一印象です。



宮本先生 博物館ご退職に寄せて

Feb. 26, 1992

W. Mikami

宮本先生が博物館をご退職されるそうで、長い間プラネタリウムの解説ご苦労さまでした。そして、このたびチロ賞を受賞されるそうで、お祝い申し上げます。私が宮本先生を初めて見たのは、5年前に大学に入学した、5月の総会に参加した時の事でした。割とおとしを召されていたので、やはり年長順で台長なのかなと思いました。しかし、それからいろいろな話を聞いてみるとやはり、この人が台長にふさわしい人だと思えるようになったのはしばらく後でした。特に、還暦を過ぎても少年の頃のように天文に夢中になる姿は、飽きっぽい私にとってはなにか心を打たれるものがありました。その情熱の深さを知ったのは、忘れもしない1990年の夏のスターフェスタでした。おそらく宮本先生の頭の中にはその日の天気の話で一杯だったのでしょうか、それともアイルトン・ミヤモトと呼ばれるほどのドライビングテクニックを駆使し、国道218号線を一気に突っ走り、気合い十分で会場に臨んだのでしょうか、勢い余って私と宇都君がその犠牲となってしまいました。（私の方は大した事がなかったのですが、宇都君の方は被害甚大でした。）

しかし、一体あのエネルギーはどこから来るのでしょうか。私などは研究の方が忙しいのをいい事に星なんかさっぱり見なくなりましたが、宮本先生は博物館の仕事以外にもいくつかの仕事を抱え、それでもよく清和村に写真を撮りに行ってしまうほどの情熱は、私も見習わねば! と思っています。（おもうだけか?）そして、亀の甲より年の功ではないですが、プラネタリウムの最中の一瞬の仮眠。このような事は私のような若輩ものは、仮眠どころかずーっと熟睡してしまい、とてもまねのできるものではありません。

天文台も10年目を迎え、このところ様々な問題に直面していますが、この局面を打破し、解決して行くにはまだまだ宮本先生のお力を借りねばならないと考えています。そして、これからも私たち後進のよき指導者であってほしいものです。

# おふたりは天然記念物

立川正之

宮本台長宅には、台長と奥様の微笑ましい姿につられ、ゴキブリホイホイの如く、あたかも公民館と思われる程、人が集まります。

そこは、さしずめ北アルプス、上高地の大自然の中でなごむ居心地。老若男女を問わず楽しく、親身に話を聞いてくれるお二人には、若輩者の我々も頭が下がります。

でも、台長がスピード狂だったこと、50才にしてハングライダーで空を飛び回っていたこと、大学時代は山岳部で『シャモ』の異名を取っていた程けんかっ早かったこと、想像もつかないでしょう。

このシャモを飼いならされたのが、東京生まれの東京育ち、元、山の手のお嬢さまであらせられます揚子奥様。

「亭主関白の様に見せかけ、実はリードしているのは私ヨ。」とは奥様の弁か？

奥様のたくみな会話に人はひきこまれ、身の上話から人生相談など、つつい口をすべらしてしまいます。特に恋愛に関する誘導尋問は警視庁も視察にきた程の絶品の腕前。

星の話のついでに(?)カウンセリングを受けられるわけですからありがたい事です。また、それとなく取り持ってくれる。まあ、一種の縁結びの神様とでもいいでしょうか。出雲大社ってとこですね。

話が深夜までいたってもいやな素振りをなさらず、こころからのもてなし。並大抵の奥様ではできません。特にパイソやもものかんづめを切る音が部屋にこだますると、もう帰れません。

台長の縁の下の力となり支えてくれている奥様。揚子奥様あつての台長と定義づけいたします。

台長にチロ賞。私は奥様に文化勲章を送りたい。

奥様の素晴らしいもてなしメニュー



# ☆☆ 青春まっただなか!

宮本台長 ☆☆

青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。  
薔薇の面差し、紅の唇、しなやかな肢体ではなく、たくましい意思、  
ゆたかな想像力、炎える情熱をさす。  
青春とは人生の深い泉の清新さをいう。

……まさに、宮本台長そのものような詩だと思えます。  
いつも前向きで、絶えず何かをやってやろうとしている宮本台長!  
私たちにとって、とても刺激になり、励みになります。

青春とは怯懦を退ける勇氣、安易を振り捨てる冒險心を意味する。  
ときには、二〇歳の青年よりも六〇歳の人に青春がある。  
年を重ねただけで人は老いない。  
理想を失うとき初めて老いる。

……KCAOは、今年10周年を迎え、また新たな目標に向かって動  
きだそうとしています。  
これからも、台長として、私たちが破目をはずさないよう  
しっかりとみていてください。

歳月は皮膚にしわを増すが、情熱を失えば心はしぼむ。  
苦惱・恐怖・失望により気力は地に這い、精神は芥になる。  
六〇歳であろうと一六歳であろうと人の胸には、驚異に魅かれる心、  
おさな児のような未知への探求心、人生への興味の歓喜がある。  
君にも吾にも見えざる駅遞が心にある。

……これからも、心のバルーンに熱い息(意気)を吹き込んで、  
もっともっと高いところを目指してください。

人から神から美・希望・喜悦・勇氣・力の靈感を受ける限り君は若い。  
靈感が絶え、精神が皮肉の雪におおわれ、悲歎の氷にとざされるとき、  
二〇歳であろうと人は老いる。  
頭を高く上げ希望の波をとらえる限り、八〇歳であろうと人は青春にし  
て巳む。

……これからも、百歳100歳って、……金さん、銀さんのように  
天文台のCMに出れるまで???  
元気で頑張ってください!?

Congratulation! チロ賞受賞おめでとうございます!!

匿名希望

サムエル・ウルマン「青春」より



## 私の宮本さん

宮本さんとは、今から14～15年ほど前に初めてお会いした。その時は、友人に勧められて熊本天文研究会に入会しようと思っただけの訪問だったように覚えている。とても緊張して友人に連れられて自宅の門をくぐった。その当時の宮本さんは、やっぱり今と少しも変わらずブラジのような髪でコーヒーの好きなジャズを聞かれるちょっとぶっとんだ人だった。

天文台を作ろうという機運が盛り上がった当時、毎日のように宮本さんの家に遅くまでおじゃまして、ああこうだと話していたわけだが、その時の話の中身は忘れてしまっても、次から次に出てくるお菓子・フルーツ・そしてコーヒー・ジュースetcは忘れられない思い出である。本当に夜遅くまでこんなにおじゃましていいのかなと思うほど、いやな顔一つされなかった奥さんには、びっくりしどうしだった。

さて、こんな宮本さんが私には忘れられない思い出がある。天文台をつくるというある日のこと、数人で城南町の桑畑の整地をしにいった。枯草が生い茂っていたのを刈っていく中に、火をつけることになった。ところが、火が強風にあおられて山火事になりそうな勢いになってしまったのである。その時の宮本さんの行動と言葉が今でも忘れられないのである。

「中島さん、公務員だけ山火事なすなら困る。どうでんいかん時はわし達だけで責任はとらん。なんさま、火は消さなん。」

といって、上着を脱ぎそれで草をたたきつけて消し始めたのだった。ここまで、人のことを考えてくださる人には、初めて会ったような気がした。これが私の一番の思い出である。

ところで、私の親戚中で今も語り草になっていることがある。天文台の開所記念の宴会を私の家の旅館で開いたときのこと、すっかり酔っばらったみんながとてつもない所行の数々を繰り広げ始めたころ、

「どら、いっちょわしも一つ、歌いましょう。」

といって宮本さんが始めた歌というのが、なぜかびんが必要という……もので。それを見ていた家のもの達が、以後宮本さんといってもなかなか分からなくても、あの歌の人たいと言えば、すぐ分かるようになったのである。

さて、今度70歳になられたわけですが、いつまでも私たちは甘えてしまっていて申し訳ないと思っています。それでも、私たちにとっては大切な心のよりどころであり続けるわけで、いつまでも元気でますます趣味に生きてほしいと思います。

# 宮本先生へ

中尾 富作

宮本先生に出会ったのはいつだったでしょうか。プラネタリウムの解説をされていた方が宮本先生だと知ったのは、プラネに通って、随分あとになってからでした。今では天文台にも出入りするようになり、宮本先生とも気軽におしゃべりしていますが、最初のころは、なかなか話もできずに、モジモジしていたのをおぼえています。先生の御宅に星仲間と遊びに行ったことが何回かありますが、先生とおしゃべりしていて、時間が0時を回ったことがあります。「じゃ、そろそろ」と返ろうとすると「まだ、いいじゃありませんか」と引き止められて、結局、0時を過ぎてしまう事になります。まあ私達も話好きですから、「それじゃあもちょっとだけ」ということになるのですが……。先生のことで、凄いなと思うのが、徹夜明けでプラネの解説をされたり、そうそうプラネの解説の話でこんなのもありましたね。徹夜明けのプラネの解説の時、すっごく眠たいときがあるそうです。そういうときは、解説はちゃんとやってテープの間だけ仮眠をとられるそうです。その先生のお話が……「なんさま眠かけんテープの回りよる間、ちょこっと寝っとですたい。こっがよーしたもんで終わりがたになっとちゅーんと目のさむっとですけんなー」と言っておられたのをおぼえています。それ以来、先生のプラネのときが、また一つ楽しみにになりました。でも、先生は3月いっぱい博物館を退職されるそうで……。プラネタリウムも新しくなるというのに先生の御声が聞けなくなるというのは残念ですが……。

遅くなりましたが、宮本先生、チロ賞受賞おめでとうございます。いつまでもお元気で、私達を引っ張って行って下さい。

P.S. また遊びに行ってもいいですか？

宮本先生 チロ賞授賞 おめでとうございます。そして、長い間の博物館のお仕事、お疲れさまでした。

さてさて宮本先生の思い出と言うと……

私が天文台に入ったのは遙か遙か昔（まだ天文同好会の時）で今以上に何にも判らない時でした。お楽しみに例会に行ったり、ピクニック気分で観測会に参加したり、そんなお気楽気分の私でした。” 学術適にどうたらとか天文学の難しい話なんてちーっともわかんない” ので” たーだ皆の話が聞けるのが面白い”、” 星ってきれいな物だと知った” 私は宮本先生ってどの様な人なのか全く知りませんでした。

この頃、まだ高校生だった私は一応真面目だったので、夜遊び(?) なんてとんでもない事だったのですが、宮本先生がいらしたので、初めて夜、外に出られる様になり、その上、外泊が出来るようになったのです。これも宮本先生のいつもニコニコなさっている雰囲気、送り迎えに来た親がすっかりファンになって安心してくれたおかげです（後は不良化の一步……イヤイヤ）。ですから安心の代名詞が宮本先生だったのです。今でもその優しい雰囲気も辛抱強さも、外見さえも変わっていません。只一つ変わった事と言えば、私にとって顧問の宮本（悦子）先生のお父さん（つまり、宮本先生の娘さん、悦子先生が地学クラブの顧問の一人だったのです）が気持ちの上で宮本先生=お父さんになった事位でしょうか。———恐れ多いって？。

世話の焼ける私の様な者の相手を、しないといけない大変な台長のお仕事ですがまだまだやってくさるので喜んでます。だから宮本先生、これからは健康に気を付けて、すこーしのんびりと楽しんで下さい。

でも、こーして考えれば昔から  
いつもいじりたく頭に太陽が…  
いすわつる事なして…



## 古希を迎えられた宮本先生への伝言

D-NABE

いつ頃だったかなあ、「日本の天文台」とかいう記事だったか本だったかに「熊本市琴平の宮本天文台」という紹介があったのは。

それから何度も「天文ガイド」とかいう雑誌にこのおじさんの記事が書かれてたんだ。10年くらい前だったか、募金活動をして、念願の「みんなが使える天文台」ってやつを作っているという記事を、当時福岡にいた高校生だった僕は羨望の眼差しで見っていたもんだよ。

その後も、このおじさんの家に集まった高校生とか大学生の記事が載っていたんだけど、「集まるだけで記事にしてもらえるこいつらは何てラッキーなやつらだ」と、ひがみいっぱい気持ちで読み返したものだ。

それからしばらく僕は独自の活動に没頭してたんで、この熊本の連中のことはすっかり忘れていたんだ。

そして、あのハレー彗星騒ぎの時僕は、何にもすることがないからって、とりあえず通ってた大学の仲間とニュージーランドに行ってそりゃーたくさん写真撮影してきたよ。結構きれいに写せていたんで、「天文ガイド」って雑誌に応募してみたわけだよ。でも結果は落選だったんだ。でもくやしうって、入選した作品を見ていたら「宮本幸男」って人の写真が入選していたんだ。

年齢が65歳って書いてある。僕は思ったね。「同じくらいの写真ならおじさんの方が有利さ」って。

でもこの「宮本」っておじさんの名前が気になって、ずーっと昔の懐かしい本を引っ張り出してみたら、あの「宮本天文台」の台長さんではないか！

それから僕は、いろんな努力をしてそういった天文雑誌に結構写真を投稿するようになったんだ。そして何度も入選するようになってようやく理解することができたことがあるんだ。「雑誌に載ってる写真は、オリジナル写真に比べて格段に描写力が低下してる」ってことさ。例えていうなら、料理番組の中で紹介されたおいしそうな食べ物も、本当の「味」とか「臭い」ってやつを伝えることはできないってことさ。

こんな僕も、大学が終わればとりあえず世間のお決まりってやつで、仕事を始めたわけだけど、これが転勤だの何だのって面倒臭いんだ。でも熊本っていう所にきてみると天文台があったんで、とりあえず入会してみたんだ。この天文台の台長の名前ってのが「宮本幸男」だったさ。不思議なものさ。

このおじさん、さぞやお偉い先生なんだろうなって、こっちもちょっとインギンな態度で話してみたんだけど、何とも優しく、そして僕にまで「さん付」で話してくれるんだから、もうまいっちゃったよ。

そして、そのおじさんが撮った写真ってやつは僕が想像してたものより、ずっときれいだったんだ。特にハレー彗星の写真はずば抜けてたね。何年か前にあんなふうに思った自分が情けないよ。

それとこのおじさん、いい年して瞳は少年なんだね、これが。

グライダーの話や、雪山登山の話をしようもんなら、目をキラキラさせてタバコをくゆらせながら時間が過ぎるのを忘れるようにおもしろい話をするんだ。

それが、詭弁家のように受け売りの話じゃなくってさ、自分の経験とか今やってることについて話してくれるもんだから、こっちまでグライダーに乗っちゃってるし、雪山で遭難しそうになってるんだ。

疑似体験ってやつさ。

僕はこのおじさんが結構好きで、今度何だっけか結構有名な賞ってやつをもらったことも、自分のことのように喜んでるんだ。

そろそろ暖かくなってきたるし、一度星の写真撮って夜明けの熱いコーヒーを仲間で飲めたらどんなに楽しいだろう、って思ってるんだ。

これからも僕らの良き「仲間」であって欲しいとおじさんに伝えていてほしいね。

秋の田の

刈入れ後かと思いきや

いつも変わらぬ

稲穂カット

木曜日担当 長谷勇治

何はともあれ、チロ賞授賞おめでとうございます。私達天文台会員にとっても大変素晴らしい、誇るべき出来事だと思います。

宮本先生に初めてお会いしたのは、天文台ができた年に博物館に入会申し込みに出かけた時ですから、まだ10年弱にしかありません。もっとも、10年を短く感じるようでは、もう年かも...

それからいくらか経たないうちに、運営委員という肩書きを背中に張られ、以来現在まで同じ木曜日の担当者として、運営の邪魔をさせていただいております。

私は生来の出不精で、運営以外でのお付き合いはほとんどないものですから、エピソードといえるような話の持ち合わせもほとんどありません。ただ、運営に対する取り組みのまじめさと、さすがはプラネタリアンと思える懐中電灯片手の話術の巧みさ、人柄のにじみ出る話し方には常に感心し、いいかげんで機械的な解説しかできない自分は、もっと見習はなければならぬと反省しております。また、星屑ハレー記念号に使った挿絵の中の彗星の尾の方向に対するこだわりにも、出来る限り正しい知識や情報を広めなければならない、という使命感・責任感が強く感じられました。

博物館を勇退された後は、ラジコン飛行機をやってみようと考えている、というお話を伺いましたが、常に新しい技術、知識に挑戦しようとされる態度は、我々若い(?)者の遠く及ぶところではありません。これからも天文台をぐいぐい引っ張って行って頂きたいと願っております。



## 永井副台長

### 博物館退職おめでとうございます。

永年にわたって天文台の会計・事務局を一手に引き受けてこられた永井副台長が、この度定年で博物館を退職されることになりました。そして、4月からは引続き嘱託として博物館に残られることになります。この間、博物館ではプラネタリウムの番組では宮本台長と共に常に新しい企画をたてられ、全国でも有数のプログラムを製作されてきました。また、星を見る会を毎月企画され、多くの市民から楽しみにされていました。

永井副台長は、天体写真に情熱を燃やされ教育的な写真ときちんと整理された記録には驚かされてきました。また、天体ビデオの分野にも早くから取り組まれ自分で購入された機材で、数々の天文現象を記録してこられました。しかも、その機材を天文台に長く貸し出していただき、GSWの記録用に活用させていただきました。

事務局としては、会費納入の記録・名簿の管理・金銭出納・帳簿の整理・各種団体との連絡など、非常に大変な仕事の数々をきちんと少しのミスもなく、やり遂げてこられました。電話でのソフトな対応には、心休まる思いがしました。

今後は、嘱託として博物館に残られるわけですが、プラネタリウムの機械も今度新しくなり、新プログラムの準備に休む暇もない御様子です。これから、夏休みにかけても大変な日々が続くと思いますが、健康に留意されて元気にがんばって下さい。また、天文台の運営に関しても、これまで同様に指導助言を宜しくお願い致します。

## 出会い

宮本幸男

昭和35年の春、長女が九州女学院中学部に入ったのは、指折り数えて、32年も昔のことになります。

夏も近づいた頃だったでしょうか、担任の先生が家庭訪問にお越しになるというので、期待してお待ちしていました。長女Sは内気で人様に馴れにくく、中学に旨く馴染めるか、少し心配していたのです(親馬鹿)。ところが意外と毎日楽しそうに通学してくれるので、きっと「優しい先生に巡り会えたのだろう」と想像していました。その先生と間もなくお会いできるのです。

紺のスーツに見をつつみ(襟を正し)、小柄で予想通りの素晴らしい先生でした。ご趣味は写真とのことで、ご自分で撮影・現像・引き伸ばしプリントまでなさる、と承り話が弾みました。私も写真大好きですが、当時家にはまだ暗室を作っていませんでした。その頃、月面写真の撮影を始めたばかりの私は、DP店に暗室処理を頼んでいましたが、気に入るような作品は一枚もなかったのです。早速、先生に現像・引き伸ばしプリントをお願いしてしまいました。先生は、厚かましい私の願いを、快く引き受けて下さり、数日後、娘に託されて美しくプリントされた月の写真を届けて下さったのです。

白石 剛先生と私の出会いはここに始まったのです。白石先生はその後良縁を得られ、永井 剛先生と改名されました。

熊本天文研究会が発足した昭和43年、先生は熊本博物館(当時は、現在の産文の場所にありました)にお勤めで、地学関係の学芸員でしたが、一方「星を見る会」の専任講師でもありました。先生は、イメージ通り非常にきちんとしたご性格で、研究会の経理を担当され、帳簿の整理・管理はプロの方も驚く程の正確さです。

天文では、アマの羨望の的であった旭精光の15cm反赤をお持ちで、月面・惑星・彗星などを主に撮影され、その御作品が天ガなどの月刊誌のグラビアページを飾ることは、しばしばでした。

昭和57年、熊本天文研究会は発展的に解消し、待望の熊本県民天文台に移行しました。勿論永井先生はメインスタッフとして、募金活動から大いに活躍して下さいました。私は県民天文台の発足の前月、プラネタリウム囑託として熊本博物館に勤務するようになり、先生に教えて頂ながらプラネタリウムの放映やシナリオ創りを勉強させて頂きました。そして10年、私は70才となって退職。永井先生は60才でめでたく定年退職。今後は囑託として博物館に残られる予定です。新装成ったプラネタリウムでのご活躍を期待致します。

# 天文台10周年という節目

永井 剛 副台長の博物館定年退職におもう

副台長 艶島 敬昭

この3月、副台長3人組の一人で熊本市の博物館に勤務してこられた永井 剛氏が定年退職されます。

熊本県民天文台の建設運動を始めたとき、永井先生は秘蔵のスライドを「スライドでみる星の世界」というタイトルで編集してくださいました。私たちは、不思議な美しさをもつ星の世界とミカゲ31cm反射望遠鏡の雄姿を紹介したこのスライドを、天文台建設へのご支援を得るために何度も何度も上映して回りました。

「熊本県民天文台建設期成会」を結成したばかりの頃、アマチュアの天文台建設と聞いて半信半疑だった人たちも、会合の席でこのスライドを見終わると思わず拍手をし、募金活動のために先頭になって活躍してくださったのですから、その威力は絶大なものでした。このスライドがなかったら、天文台建設はもっともっと困難なものだったに違いありません。

予算の少ない博物館で、しかし、全力投球で自前のプラネ番組をつくり続けてこられた努力の結晶が、ここにも不滅の名作として残されていると思うのは私だけではないでしょう。

永井先生は、スライドだけではなく「映像」について先駆的に取り組んでこられました。ビデオ撮影用の機材も、当時の最高のものをお持ちでした。当然、私も刺激を受けたのですが、残念ながら機材がありません。ハレー彗星の時、NHKからI・I（イメージ・インテンシファイア=光電子増倍管）を借用できた事を契機に、永井先生の機材をおかりして超高感度ビデオシステムをつくり撮影に取り組みました。

ハレーの後に、例の測地衛星「あじさい」の観測依頼が飛び込み、再びビデオ機材を専用するあつかましさで、つい最近、機材をお返りするまで先生には長い事ご迷惑をかけっぱなしでした。それでなければ、すばらしいビデオソフトを作って頂けたはずだったのにと少し反省しています。

また、永井先生は老朽化したプラネタリウムの更新をずっと念願しておられましたが、いよいよ昨年末より改修に着手され、この春の改修完了をめざして盛んに工事や調整が行われているそうです。「念願の新型プラネの導入時に退職とは」と心配される方もいらっしゃるでしょうが、そこは大丈夫。退職後もしばらくは囑託としてプラネ勤めをされるそうです。永井先生の事ですから、きっと「これまで以上のプラネ番組を」と燃えていらっしゃる事でしょう。

永井先生、天文台の10年を、会計という大仕事を笑顔でこなしつつ支えて下さり、事務局という大変な役割を果たして頂いて有り難うございました。相変わらず口の悪い批評家としてプラネへ参上致しますので今後ともよろしく願いいたします。

先生も大きな節目を迎えられるますが、少し息抜きをされてから、今までにないおもいっきり楽しい、プラネ番組をつくって下さいね。



むかーし昔、私が粋なネクタイをちょいと締んでいた頃、熊大理学部の上で  
 “星を見る会”が毎月行なわれていました。

「どんな事やってんのかなー」と覗いて間違っ<sup>まちが</sup>て地学部なんぞに入っちゃっ  
 て、何にも判らない毎日の私でした。そんな時に“星を見る会”の事を知って、  
 「掃り道だし、何か教えてくれるみたいだし、皆も行くし、行ってみようかなー。」  
 と思っ<sup>おも</sup>てあの暗ーい階段を登って行きました。すると意外にも沢山<sup>たくさん</sup>の人々がマイ  
 クを持った一人の人を囲んで座っていました。私は初めての経験と運動不足のせ  
 いでドキドキし乍ら聞いていました。

「北の空を見て下さい。杓<sup>しやく</sup>の形をした星の並びが有りますね。(え?どれ?杓<sup>しやく</sup>  
 てどれでもどんなに結んでもあちこちに見えていったいどれのことー?)あれが  
 有名な北斗七星です。(えーっと。何か聞いた様な…)1.2.3.4.5.6.7(目  
 が光りを追ってやっ<sup>や</sup>と何だか場所が判<sup>わか</sup>って来たかなー?)有ましたね。(やっ  
 と判ったー。)この7個の星は一つの星座ではなく、大熊座の一部です。(えっ)  
 大熊の腰から尻尾にかけての部分に当りますが、8番目の星を良く見て下さい。  
 横に小さく星がくっついて見えるでしょう。目の良い方は見えるんですが…。」  
 —あちこちで「見えたー」と言う声。—「ですから、(一つ一つの星に当  
 てはめて)お、お、ぐ、ま、の、し、っ、ほと当てはめてあの小さい星が小さい  
 つになります。(へ-----。上手く出来てるのねー。)」

この時マイクを持っていらしたのは永井先生でした。そして、いちいちのリア  
 クションは怖<sup>こわ</sup>れ多くも今運営委員をして、その上星空散歩なんてやっている者で  
 す。だから、説明して「え?どこー?わかんない。」と言われる方のお気持ち  
 本当に本当に良ーく判ります。それはさて置き、この時感心して面白いと  
 思っ<sup>おも</sup>た御陰<sup>ごかげ</sup>でいまでも星の世界から放れられないのかもしれませんが。この頃から  
 今も変わらず永井先生の話しは判りやすいし、良くまとまって面白いのです。

永井先生も今年で定年だそうですね。一旦<sup>いちど</sup>博物観を御辞めになられるという事  
 で、長い間御疲れ様でした。今後は属託<sup>りょたく</sup>としてプラネタリウムの方に頑張られる  
 という事ですが、機械も新しくなるし、大変でしょうが楽しみにしています。今  
 後もあの快調な説明を宜<sup>よろ</sup>しく御願います。

## 永井先生へ

古田 とみよ

『7つの顔を持つ男』・・・(だったでしょうか? そんな小説のタイトルを聞いた事があります。) または、『怪人21面相』・・・。例えがチョット変ですけど、永井先生から、このようなイメージがわいてきます。

先生の専門分野は地質ですが、天文学(プラネタリウム)の担当もされています。プラネタリウムでは、シナリオライター、カメラマン、音響マン?、プログラマー、解説者、etc・・・次々と変身されていきます。そして、先生は、これらの役割を正確にかつ確実にこなしていられます。でも、それだけに先生の毎日は、本当にお忙しく、精神的、肉体的な疲労はかなりのものだったでしょう。(あまり、お役にたてず申し訳ありません。) ある冬の寒い日に行われた「星を見る会」で、風邪でふらふらになりながらも、時間いっぱいを使って、お客様を相手に星座の解説をやり通された姿には、本当に感動してしまいました。

永井先生は、今年の3月31日をもって、熊本博物館を定年退職されます。(とてもお若く見えるので、信じられないような気がします・・・) 本当にお疲れさまでした。特に、いたらない私が色々ご迷惑をおかけしてしまい、ますますお疲れになった事だと思います。

永井先生が退職されるとなると、その後のプラネタリウムに不安を感じられる方が、多々いらっしゃる事でしょう。宮本先生もお辞めになるし・・・でも、ご安心下さい。永井先生は、博物館に残られて今まで通りにプラネタリウムでのお仕事を続けられます。先生もいらっしゃるし、プラネタリウムの機械も新しくパワーアップされますので、きっと面白いプログラムを御覧いただく事が出来るでしょう。ただ、気掛かりなのは、不出来な私が、再び先生に余計なご苦勞を、おかけするのではないかという事です。そんな事がないように、日々、精進に努めますので、これからもよろしく願いいたします。

4・5・6月とプログラム制作で、忙しい日が続きますので、お体にはくれぐれもお気をつけ下さい。



# 【1月の県民天文台

# ～運営日誌より～】

来客数 48人  
 開台率 18/29 = 62%

日付	天気	来客数	担当運営委員	記事
1(土)	晴れ	6人	中島、高田 木下	艶島、小林J、国吉、池永、阿部、林田 昼までは強風。午後は寒さが厳しく なって空は晴れ。雲が時々出るけど 薄曇りで動きも速い。
2(日)	晴れのち曇り	2人	艶島、高田	小林J、安達、加奈とその友人 高田君の友人はアベックで来台 安達さんはほうき星とオリオン星雲をみたら 「寒いから帰る」と言って本当に さっさと帰ってしまいました。
4(火)	快晴	なし	永原	山口、小林J
5(水)	快晴のち曇り	なし	宇都、国吉 小林、立川	花草、中尾 水僕のエーグルトクッキーは小さな春を感じ させながら、パクつきました。花草さん ありがとうございます。(立川) 町野さん甘酒ありがとうございます。
6(木)	曇り	なし	宮本	
8(土)	快晴	12人 (出水中 7人)	中島、高田	艶島、阿部、小林、山口 小林J氏がボーグ(10cm ED)のモニ ターにあたりましたので、ここしばらく いばっているでしょう。(高田) 1991g1観測、1922bは見え(小林J)
9(日)	晴のち曇	8人	艶島	小林J 運営している間にビールが消費しつくされ ていた(艶島)
12(水)	晴れ	なし	国吉、立川 小林J	月に大きな輪 チョコレートおいしかった(小林J)
14(金)	はれ	なし	三上、中尾 安達	山口、林田、艶島 何となく年を感じた中尾さんでした。
16(日)	くもり	4人	艶島、甲斐	小林J、月、コアラのマーチ
19(水)	くもり	なし	中島	第2観測所のドアがけり破られかけていた 早急に修理が必要。
20(木)	晴れ	TKU刊 3人	長谷、宮本	宮本先生のチロ賞受賞についての取材が ありました。 星の広場より白鳥座新星発見のTEL
21(金)	曇り	なし	安達	艶島。さむい(安達)
22(土)	快晴	9人	中島、木下 高田	艶島、小林J、国吉、山口、影山 また、今夜も宴会をやってしまった。 第2観測所のドアの補修 1991h1 muller 彗星 全光度9等ぐらい 白鳥座新星 高田、小林J見る。
23(日)	曇時々晴	なし	艶島	中島。GS W観測のテープをダビング ナポレオンが愛飲したという銘柄のワイン 適度に渋味があって美味!
24(月)	くもり	なし	小林J	朝、晴れ間あり新屋が暗くなった。
25(火)	快晴	なし	なし	快晴なのに当番の姿が見えず。ついでに 来台者も無し! Muller 彗星明るくなった9等!(小林J)
26(水)	晴れ	4人	小林、立川 国吉	艶島、三上 Muller 彗星、全光度8等、30'以上の尾 (小林J)

## I. ヨハネス・ケプラー

ルネッサンス期、即ち、近代科学の草創期の科学者といえば、コペルニクス (Nicolaus Copernicus)、ガリレオ・ガリレイ (Galileo Galilei) が有名だが、ぼくは、ヨハネス・ケプラー (Johannes Kepler) が好きだ。そんでもって、ティコ・ブラーエ (Tycho Brahe) の業績には尊敬せずにはおれない。と思っている。というわけで、ティコ・ブラーエとヨハネス・ケプラーのコンビ? を大いに持ち上げたいと思うのである。

## II. コペルニクスの国籍

ところで、本稿では、初出の人名に対して、できる限り、原語のスペルを付そうと思う。ところが、これが結構厄介だったりするのだ。ガリレオ・ガリレイの場合はまだ良いのだが、コペルニクスは、いったい、なに人なんだろうか? 岩波文庫版の「天球の回転について」の解説によると、コペルニクスはトルン (Torun/Thorn) という町の生まれだそうだが、ここはコペルニクスの生まれた当時、ポーランド領だったらしいが、プロイセンの町、即ち、ドイツ人の町だったらしい。確か、プロイセンの前身は、ドイツ辺境騎士団領というのだったと思う。ドイツ騎士団は、テンプル騎士団、ヨハネ騎士団と共に十字軍時代に創設された宗教騎士団 (異教徒と戦う坊さん集団) の一つである。そこで、十字軍の遠征から帰って来て、つまり、失業して、トランシルヴァニア (ドラキュラの出生地だったっけ) やバルト海沿岸部に入植して、そこで、このうちの、バルト海沿岸部が後のプロイセンとなるのである。コペルニクスが生まれた町は、多分、この辺りだったのだろう。多分、今は、ポーランド領だから、コペルニクスはポーランド人といえるかもしれない。しかし、コペルニクスの母語はドイツ語であった可能性が高いと思う。そして、コペルニクスの父親はドイツ人らしい。

ちなみに、この当時、「ドイツ」という国は存在しなかった。ドイツは無数の国の集まりだったのである。強いて言えば、「神聖ローマ帝国」という概念が、ドイツだといえなくもないが、これは日本の江戸幕府のように、強力な中央権力が存在したようなものではなく、かなり形骸化したものだった。そして、それは、キリスト教、ローマ教皇の守護者という意味で、今で言うところのドイツの皇帝という意味ではなかった。(西)ヨーロッパの歴史は統合と分裂と歴史である。西ローマ帝国がゲルマン人の大移動によって消滅し、(西)ヨーロッパがばらばらになった後、ゲルマン人の有力な勢力がフランク王国を建てた。そして、西ローマ帝国という後ろ盾を失ったローマ教会がフランク王国と

提携し、王に「神聖ローマ皇帝」という称号を贈るようになったのが、神聖ローマ帝国の起源であるといえる。しかし、フランク王国はやがて分裂し、西ヨーロッパは再びばらばらになった。おまけに、「大空位時代」という皇帝不在の時代が続き、そして、14世紀には「神聖ローマ皇帝」は選帝侯という、皇帝を選挙する資格を持った有力な領主によって選ばれるようになった。というわけで、「皇帝」といえども、単なる領主に過ぎず、有権者である選帝侯が当たり障りの無い人を皇帝に選んだので、皇帝の力は小さかった。というわけで、当時のヨーロッパは、今のような「国」の概念はなかったといっている。やがて、皇帝はハプスブルグ家にはぼ定着し、それが、後のオーストリア帝国となる。ちなみに、ハプスブルグ家が皇帝に選ばれたのは、当たり障りの無い弱小領主だったからだ。しかし、ハプスブルグ家は多産系だった。そこで、各地の王家に王族を送り込んで、結果的に乗っ取っていったのである。そして、いつのまにか一大帝国を築いてしまったのである。まあ、これは別の話。まあ、こういうわけだから、コペルニクスがなに人かという問いはナンセンスかもしれない。ヨーロッパの歴史は、分裂と統合の歴史であり、国の概念も時代によって変化している。今、西ヨーロッパは統合へ向かい、国の概念を大きく変えようとしているが、これも、こうした歴史の流れでとらえられるかもしれない。

ところで、コペルニクスの名前の話に戻るが、ポーランド人説に立てば、Nikolas Kopernik となる。コペルニクってわけか。ところで、当時の学者はラテン語で文章を書いたので、ニコラウス・コペルニクスというのは、ラテン語読みである。そして、ここでは、一般的に使われているコペルニクスを採用することにする。

このへんで、天文の話に戻らないと、怒られそうだ。ってわけで、天文の話に戻る。

### Ⅲ. コペルニクスと地動説

コペルニクスといえば、地動説だ。そんでもって、よく、コペルニクスを地動説の発見者と誤解している人がいるが、実はそうじゃない。地動説はギリシャ時代からあった。彼は再発見者に過ぎない。彼自身、自著において言明している。あるいは、私は思うのだが、地動説提唱者として一般にコペルニクスは実際よりも高い評価を受け過ぎているのではないだろうか。コペルニクスの地動説は、科学としては、全くの仮説であった。もし、彼がそれを真実だとふれまわったならば、それは科学者としては正しい態度ではないかもしれない。実際、彼の説は、現在の太陽系のモデルとは似ても似つかないものである。天体間は重力で結び付けられているのではなく、天体は、天動説譲りの、複雑な周転円によって動かされていた。それ故、その複雑さが欠点とされていた、プトレマ



イオスの周転円による天動説モデルよりも、はるかに複雑な体系だった。そして、コペルニクスの地動説は、太陽系のモデルではなく、全宇宙のモデルだった。即ち、夜空に輝く全ての星々までもが、太陽の周りを回っているとするものだった。これでは、遠く離れた星は猛烈な速さで回転しなければならない。

とは言うものの、現在に生きる者が過去の人間を非難することはたやすいが、科学は一人の天才がいきなり完成された体系を打ち立てるものではなく、少しずつ改良、修正されていくものである以上、コペルニクスを非難することはできないだろう。むしろ、コペルニクスの画期的な点は、ルネッサンスという流れの中で、教会の説と異なる説を述べるタブーを破ったことであろう。彼にその気がなかったにせよ。

コペルニクスはカトリックの僧侶であり、教会と対立する気など毛頭なかった。一般に、現在、この当時、カトリック教会と科学者の対立という図式が成立していたようなイメージがあるが、この当時において、聖職者は知的階級であり、学問を志す者になる職業の一つ、それも、かなり大きな一つであったといえる。それ故に、科学者と聖職者はかなりだぶっていたのである。しかしながら、地動説が弾圧されたのは、その内容に問題があったというよりは、むしろ、政治的な問題であったといえる。この当時、カトリックはプロテスタントとの抗争の最中だった。魔女狩りなどを見ても判るように、聖書第一主義の原理主義的な、プロテスタントの方が、カトリックよりも蒙昧であったかもしれない。

いずれにせよ、コペルニクスを非難できないのと同様、コペルニクスの説を批判した天文学者を非難することはできないだろう。この当時の地動説は多分に観念的なものであり、それを支持する確実な根拠を示すことはできなかった。そもそも、天体は球形で、その軌道は円形であるとするのも、ギリシア以来の、完全な運動は円運動で、完全な形状は球であるという考え方によるものであったのだから。

#### IV. ティコ・ブラーエ

やがて、観測の大家、ティコ・ブラーエ (Tycho Brahe) はコペルニクスの説の正しいか否かを観測によって見極めようとした。ところで、また、脱線するが、ティコはデンマークの貴族の出で、ティコというのは洗礼名のティゲ (Tyge) をラテン語化したものだそう。ここでは、ティコで通すが、どこかで、ドイツ語読みして「ティヒョ」なんて書いてあったのがあったなあ。そんなでもって、「ブラーエ」ではなくて「ブラーヘ」ていうのもあるし、なぜか、理系の本では、「プリンタ」とか「トランジスタ」てふうに、「一」を省略する習慣があって、「ブラーヘ」ではなくて「ブラへ」て書いたりもする。え、

脱線はいいかげんにしろって？御免なさい。天文の話させていただきます。

ティコは年周視差の有無によって、コペルニクスの説を検証しようとした。うーん、科学の曙だ。仮説を観測・実験によって検証する。こうした科学的思考というものだ。sonでもって、年周視差というのは、次のようなものである。地球から星を観測する。もし、地球が太陽の周りを回っているのならば、その天体の見える方向は地球の位置によって変化するはずである。地球は一年で一回、太陽の周りを公転するので、最大、地球の軌道円の直径の幅の位置の変化で星を見ることができる。ここで、地球の直径を底辺とし、この線分と星とでできる三角形の、底辺から見た星のところになす角が年周視差である。もし、年周視差が観測できれば、地球の軌道円の大きさが判っていれば、三角比で、その星までの距離を求めることができる。

しかし、ティコは年周視差を観測できなかった。それ故に、彼は地球が太陽の周りを公転していることを否定した。ティコが年周視差を観測できなかったのは、恒星が彼が思っていたよりもずっと遠くにあったからである。ティコの眼視による観測では、年周視差を観測できるほどの精度がなかったのである。

ティコは、観測によって、地球が太陽の周りを公転していることを否定した。これは、結果としては誤りだが、科学的な態度だったといえるだろう。

## V. 今後の展望？

次号以下、ティコ・ブラーエの話をもう少し続けたいと思う。そして、ケプラー氏も登場の予定である。ただ、あくまで予定ではある。

質問、批判、激励、苦情、寄付、罵詈雑言、中止勧告、リクエスト等、お手紙をお待ちする。

### \* 参考文献

#### ・「天球の回天について」

著者：ニコラウス・コペルニクス

訳者：矢島祐利

発行所：岩波書店（岩波文庫 青905-1）

#### ・「ハプスブルク帝国史 中世から1918年まで」

著者：ゲオルク・シュタットミュラー


解題者：矢田俊隆

訳者：丹後杏一

発行所：刀水書房（人間科学叢書15）

## 新 人 紹 介

林田 茂さん

(題名が無かったので勝手に付けさせて頂きました。ごめんなさい )

明けましておめでたうございます。初めまして私、林田 茂と申します。

僕は、素人ではありますが星を見るのがどうい好きで城南に天文台があると聞き、愛車の”きんた”を乗り回し見知らぬ城南の山道をクネクネさまようこと30分あまり、ついに目的地へとたどりつくことができました。

そとに車が数台どうやらほかに人はいるようだ。どうしようかと思いつつも入口に近付いてみると「ガチャッ!!」

そして突然、「何か持ってきた。」

### 「え!!... て、天文台に来るのに何かいるの

&ここ、ほんと天文台...」な、なんとそこでは宴会が行なわれていた。この一言と現象に僕は呆気にとられてしまった。

これが僕の第一印象でした。

その後なんやらと話している内に結局会員にまでなっていました。というのが僕の入会までのプロフィールです。んでもって、僕の自己紹介をしますと、名前は上記のたうりで昭和45年5月22日の21歳ガキっぽみえてもこれでも社会人、学校時代&同期の友達には「イメルダ」略して「イメちゃん」もっと略して「イメ」と呼ばれています。趣味はコンピュータいじりが多少得意でマンガは好きで音楽はへたくそながらもサックスを吹いています(本当にへた)。&ドライブは5カ月で1万km以上”きんた”を走らせ東奔西走けっこう好きな方だと思う。というイメの自己紹介でした。

編集より一言

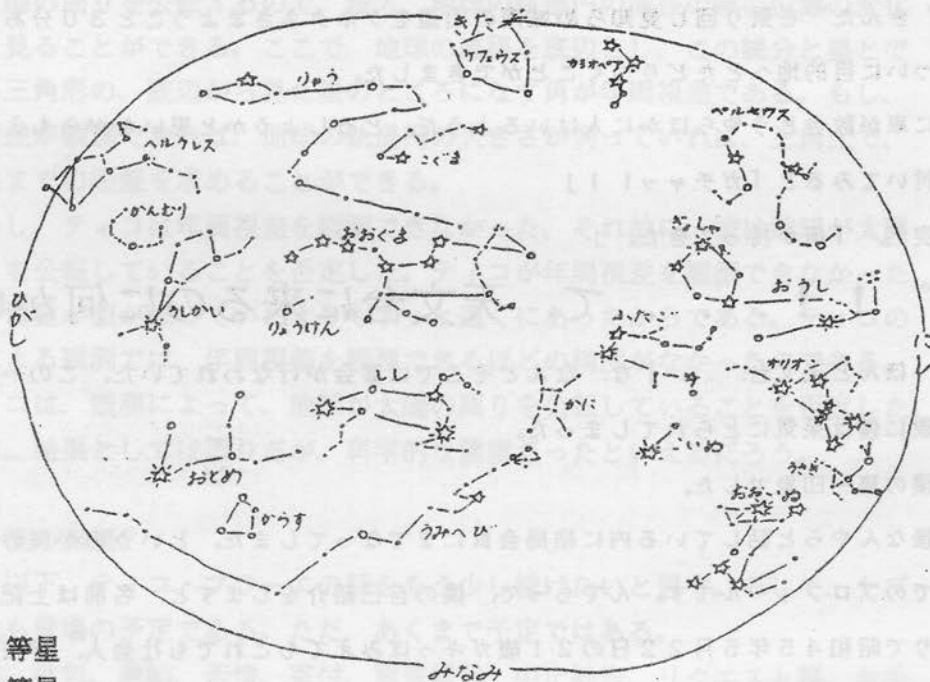
ちなみに、この日はクリスマスパーティーの日で「美味しいねー。」と盛り上がっていた時だったのでした。びっくりさせたお詫びにご馳走させて頂きました。

入会しないと帰さないと言った訳ではありません。この後彼は食べ物にありつける好運の持ち主になってしまったかも知れない。.....

# KEIKOの星空散歩

4月上旬 ☆ 午後9.00頃

4月下旬 ☆ 午後8.00頃



- ☆ 1等星
- ☆ 2等星
- ☆ 3等星
- ☆ 4等星以下
- 4月の星暦

- 3日(金) 新月
- 13日(月) Talk about (天文台)
- 17日(金) 満月
- 22日(水) こと座流星群この頃極大
- 29日(水) みどりの日

## 牡羊座生れの会員さん(3.21~4.20)

### Happy birthday☆

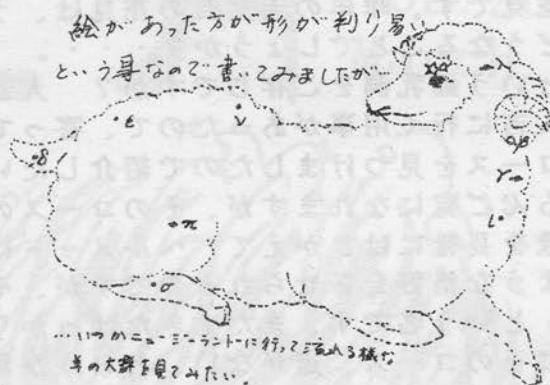
- No. 134 kunf (へへッ)
- No. 197 中島さん
- No. 277 吉田さん
- No. 314 大石さん
- No. 337 三上さん
- No. 340 奥永さん
- No. 342 平山さん
- No. 391 内田さん
- No. 393 長曾我部さん
- No. 411 河合さん
- No. 415 林田さん

# 牡羊座 Aries (Ari)

☆  
はっぴー

☆  
しん  
はっぴー

ハッ  
ピィ  
はっ  
ぴー



ハッ  
ピィ

ハッ  
ピィ



写真とえた。  
高田さん ありがとう

☆ 92. 1. 26 (日)  
P.M. 7:30 ~ 7:35

カメラ撮影  
50mm F2.8

フジ HR-400  
天文台で撮影

ペガサスの四辺形から伸びたアンドロメダ座の南側にα、β、δの2等星、3等星4等星が作る三角形が牡羊座です。

テッサリアのブリクソス王子とヘレー<sup>ヘレ</sup>女王が継母の策略で(火でいった麦を植えて凶作にして二人のせい<sup>せい</sup>にしました)犠<sup>いけにえ</sup>にされようとした時、実の母が二人を助けようとして黄金の羊を遣<sup>つ</sup>わし助け出しました。ヘレーは途中海に落ちて溺<sup>ひた</sup>れてしまいましたが、ブリクソスは無事にコルクスに渡り、後にこの羊をゼウスに犠<sup>いけにえ</sup>に捧げ、黄金の毛皮はコルクスの王様に贈りました。その後ヤーソンがアルゴ船の乗ってこの毛皮を奪い、最後にゼウスが天に上げて星座にしたのが牡羊座です。

昔々2000年程昔、この牡羊座に春分点(昼の長さ<sup>ひるのながさ</sup>と夜の長さ<sup>よるのながさ</sup>が同じになる日)が有り、それで3月21日が春分の日になっているのです。今年は閏年なので20日ですが、今では歳差運動によってこの春分点は魚座にあります。しかし、ともあれ、この頃からやっと春になるというのでお祭をしたり、大事にされた星座なのです。

牡羊座には星雲や星団など無く、見物としてはγ星の目の様な二重星、λ星の青い二重星位です。

KUN





★★★ 宮本先生、チロ賞受賞おめでとうございます。先生のご健康とご活躍を、心よりお祈り申し上げます。★★★

肌寒い日が続いたかと思えば、ぼかぼか陽気になったり、こうやって春になってゆくんですね。ことしの桜はいつが見頃になるのでしょうか桜といば花見です。去年の天文台の花見は、うずぶろうての花見でしたが今年はどうなることでしょうか？・・・

球泉洞という鍾乳洞をご存じですか？ 人吉の球磨川沿いにある鍾乳洞です。人吉に行く用事があったので、寄ってみたのですが、ここでもしろいコースを見つけましたので紹介したいと思います。一般の鍾乳洞ももちろんご覧になれますが、そのコースのさらに奥を見せてくれるのです。靴を長靴にはきかえて、ヘルメットには懐中電灯という、洞窟探検隊のような格好をさせられるのですが、そのコース名もなんと「探検コース」という名です。まだできたばかりということでしたが、面白いことにそのコース、道がない、というか舗装がしてないのです。普通のコースではコンクリートで道がつくってあり、手摺りや柵だってありますが、それらが無いのです。階段などもあります。工事現場などで使う足場でくんであるだけです。いやー、あの階段は、恐ろしかった鍾乳洞の滝を見たり、川に落ちないように石の上をヨッコラショ、と飛び越えていったり、真っ白なエビも見せてもらいました。生の鍾乳洞をそのまま視れます。もちろんガイドの方も一緒に、いろんな説明をしながら案内してくれます。宇宙もいいですが、地球の地下もいいですよ。

★編集部より★

宮本先生は、3月いっぱい博物館をおやめになりますが、天文台はそのままお続けになります。尚、副台長の永井先生は、囑託として博物館に残られるそうです。

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 1992年3月号 通関203号  
 発行所 熊本県民天文台 〒861-41 熊本県下益城郡城南町藤山  
 TEL 0964-28-6060  
 熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市古京町3番2号  
 熊本市立熊本博物館内  
 TEL 096-324-3500  
 振替口座 熊本8-24463  
 熊本県民天文台事務局  
 担当 中尾 富作

# 10周年記念行事のご案内

いよいよ天文台もこの5月16日(土)で10周年を迎えることになりました。そこで、以下の要領で記念行事を行いたいと思います。パーティーにつきましては準備の都合もありますので同封の葉書で、出席・欠席のご返事をお願い致します。

## 1. 記念講演会

日時：5月16日(土曜日)

13:30 受付

14:00 開演

村山先生の講演「星と人間」

柳家こゑん師匠「星空寄席」

16:00 閉会予定

場所：県立劇場・大会議室

## 2. 記念パーティー

日時：5月16日(土曜日)

18:30 開宴

20:30 終了

場所：熊本交通センターホテル